

試に向けた指導・支援を考える

P.4 課題整理

2025年度大学入試の情報整理

ベネッセコーポレーション 教育情報センター センター長 谷本祐一郎

P.7 教科指導

2025年度大学入試で求められる力と教科指導

全体 ベネッセコーポレーション 進研模試 編集長 三宅悠介

国語 岡山県立岡山城東高校 田中誠一郎

歴史総合 愛知県立大府高校 野々山 新

情報I 兵庫県・私立雲雀丘学園中学校・高校 林 宏樹



P.14 進路指導

2025年度大学入試に向けた進路指導のポイント

北海道札幌北高校 進路指導部長 高桑知哉


福井県立若狭高校 キャリアサポートセンター室長 小坂康之

奈良県・私立西大和学園中学校・高校 高校1年生担任 梨子田 喬



姿、教師の役割

③ 国公立大学を年内入試で目指す生徒が多い学校のケース


生徒 BEFORE 

拡大した年内入試に対して
安易な進路選択を行う姿勢
から

学校現場でよく聞く声 (*3)

- 進路選びについて生徒の「こだわり」が薄い。大学選択は「行きたい」より「入れる」。指定校や総合型での選択となる。
- 学習でのつまずきが多く、分からない部分はリセットされてしまう。

EMPOWERMENT


生徒 AFTER 

自分が生かせる志望先を探索・研究し、こだわりを持った進路選択ができる状態に。

指導の重点は
「こだわり」を持った選択を促す進路支援。

指導の重点は
学習環境担保で生徒の「分からない」を解消。

④ 大学・専門学校・就職など、生徒が幅広く希望する学校のケース


生徒 BEFORE 

これまでの経験によって自己肯定感が低い状態から

学校現場でよく聞く声 (*3)

- 生徒の基礎学力と自己肯定感を高めたい。「やればできる」を実感させたい。
- 年内入試に伴う小論文、志望理由書作成の指導・対策に手間と時間がかかる。

EMPOWERMENT

生徒 AFTER 

自分自身の可能性に気づき、進路・学習に前向きになれる状態に。

指導の重点は
前向きな声かけで生徒の自己肯定感を高め続ける。

指導の重点は
義務教育範囲の学び直しから進路対応力育成まで。

3年生0学期
目前!


2025年度大学入

生徒の意識を受験生へと切り替える、いわゆる3年生0学期が近づいてきました。当事者である現高校2年生が受験する2025年度大学入試は、新学習指導要領に対応した入試の実施初年度となります。大幅な改訂となった今回の学習指導要領の影響を最も大きく受ける入試が大学入学共通テストですが、同テストは国立・公立大学の一般選抜や私立大学の同テスト利用入試だけでなく、年内入試(*1)における学力試験として課す大学も少なくありません。もちろん、国立・公立大学の個別学力検査や私立大学の個別入試も新学習指導要領に対応した内容になりますから、各校には、25年度入試に向けた今後1年間の生徒への指導・支援のあり方や計画をしっかりと考え、それらを実現・実行していくことが求められます。とは言え、下図のように、国立・公立大学志望者と私立大学志望者、一般選抜希望者と年内入試希望者、それぞれどちらを志望・希望する生徒が多いかなどによって、各校の生徒の課題や目指す姿、教師に求められる役割も異なるものと思います(下図は、多くの読者からご好評をいただいた、本誌8月号の特集のP.8に掲載した図8に、一般選抜で大学進学を目指す生徒が多い学校のケース①を加えた図です)。そうした各校の実情に合った指導・支援のあり方を考える際にお役立ていただくべく、本特集を企画しました。25年度入試に向けた指導・支援は、下図のAFTERの生徒の姿を実現するとともに、社会に出てからも生きる資質・能力を生徒に育成する大きな好機となるはずです。年内入試支援をテーマとした本誌8月号の特集とともに、今号の本特集がその一助になれば幸いです。

VIEWnext 編集部 統括責任者 柏木 崇

学校・生徒の状況によって異なる教師の役割 希望進路ケース(*2)別 生徒の課題と目指す


① 選抜性の高い難関大学を一般選抜で目指す生徒が多い学校のケース

生徒
BEFORE 
新課程・新入試の量的変化
に対して、受動的に学習する
姿勢から

学校現場でよく聞く声(*3)

- 過去問題のない新課程入試に伴い、高い目標を目指そうとしない。
- 次世代リーダーの基礎力にもつながる探究の取り組みだが、通り一遍のもので終わっている。


EMPOWERMENT

生徒
AFTER 
強み・弱みの把握に基づき、
主体的に計画を立て、実行
できる姿勢に。

指導の重点は
学力のみならず粘り強さまで育む。

指導の重点は
声かけの継続で生徒の背中を押し続ける。


② 国公立大学を一般選抜・年内入試で目指す生徒が多い学校のケース

生徒
BEFORE 
年内入試希望者が増加して
いる状況下で、安易に志望
を下げてしまう姿勢から

学校現場でよく聞く声(*3)

- 志望校へのこだわりが弱く、教師・保護者の認める大学へという志向が強い。
- 受け身的な学習で伸び悩む生徒をうまくサポートできない。

EMPOWERMENT

生徒
AFTER 
希望する進路実現のために
学びに向かう姿勢に。

指導の重点は
「自分軸」が貫かれた志望動機づくり。

指導の重点は
一般選抜・年内入試に応じた個別最適へと導く。

*1 総合型選抜(旧AO入試)と学校推薦型選抜を指す。9~12月の年内に試験が実施され、合否が決まること多い両選抜を、ここでは「年内入試」と総称する。

*2 ケース分けはあくまで例であり、複数ケースにまたがる学校等があるものと考えます。

*3 入試に関連する声を抜粋。

2025年度大学入試の情報整理

2025年度大学入試は、新学習指導要領に対応した最初の入試であるため、前年度の入試からの変更点が多く、情報の整理・把握が欠かせない。ここでは、25年度入試のポイントを解説する。

大学入学共通テストの変更点

まずは2025年度大学入学共通テスト（以下、25年度共通テスト）について見ていきます。従来からの出題教科の中で大きな変化があるのが、国語と地理歴史・公民、そして数学です（図1）。

◎**国語** 25年度共通テストから、実用的な文章の大問が1問追加され、近代的な文章は3問で110点、古典は以降の文章は2問で110点、古典は2問で90点となります。試験時間は現行の共通テストよりも10分長い90分です。試作問題では、生徒の言語活動の場面が設定され、複数の文章・図表・グラフを解釈する力や、それらを関連づけて考察する力が求められました。大学入試センターは、問題作成方針に関する検討の方向性として、異なる種類や分野の文章などを組み合わせた問

題を検討するとしており、スピーディな読解力と多様なジャンルの文章への対応力が問われることになりそうです。

◎**地理歴史・公民** 25年度共通テストからは、6つの出題科目より最大2科目を選択しますが、『地理総合／歴史総合／公共』の選択を不可としている大学・学部がある点には、注意が必要です。特に難関国立大、ブロック大では選択不可としている大学・学部が多くあります（図2）。そのため、『地理総合／歴史総合／公共』以外の出題科目、つまり『地理総合、地理探究』『歴史総合、日本史探究』『歴史総合、世界史探究』『公共、倫理』『公共、政治・経済』から選択した方が、受験大学の選択肢が広がります。

共通テストで『地理総合／歴史総合／公共』を選択した場合、選択解答した問題の出題範囲の科目と同一名称を含ま

む科目の組み合わせを選択することはできない（例えば、『地理総合／歴史総合／公共』で『歴史総合』と『公共』を選択した場合、もう1科目として『歴史総合、日本史探究（または世界史探究）』を選択することはできない）ことにも注意が必要です。『地理総合／歴史総合／公共』の選択と、他の科目との組み合わせの可否は、ウェブサイト『VIEWnext ONLINE』で確認できます（P.6参照）。

◎**数学** 数学②がポイントとなります。現行の共通テストに存在する『数学Ⅱ』『数学Ⅱ・数学B』は廃止され、『数学Ⅱ、数学B、数学C』となり、試験時間は現行の共通テストよりも10分延びて、数学①と同じ70分となります。数学②の『数学Ⅱ、数学B、数学C』のうち、『数学B』については2項目の内容（数列、統計的な推測）、『数学C』



「解説」
ベネッセコーポレーション
教育情報センター センター長
谷本祐一郎
たにもと・ゆういちろう

については2項目の内容（ベクトル、平面上の曲線と複素数平面）に対応した出題とし、4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答します。そのため、文系の受験者も、少なくとも『数学C』の1大問を解答することが求められます。

なお、個別試験で『数学B』か『数学C』を課す国公立大文系学部のうち、出題範囲を数列（『数学B』）とベクトル（『数学C』）としている募集単位は約75%となっています（図3）。そのため文系学部を志望する生徒の多くが、個別学力検査も共通テストで選択する『数学B』『数学C』の分野で受験することが可能となる見通しです。

図1 2025年度大学入学共通テスト出題教科・科目の出題方法等(予告)

| 教科 | グループ | 出題科目 | 出題方法 (出題範囲、出題科目選択の方法等) 出題範囲について特記がない場合、出題科目名に含まれる 学習指導要領の科目の内容を総合した出題範囲とする。 | 試験時間 (配点) |
|------|------|--|---|--|
| 国語 | | 『国語』 | 『現代の国語』及び『言語文化』を出題範囲とし、近代以降の文章及び古典(古文、漢文)を出題する。 | 90分(200点) |
| 地理歴史 | | 『地理総合、地理探究』 『歴史総合、日本史探究』 『歴史総合、世界史探究』 『公共、倫理』 『公共、政治・経済』 『地理総合/歴史総合/公共』 | <ul style="list-style-type: none"> 左記出題科目の6科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 (a)の『地理総合/歴史総合/公共』は、『地理総合』、『歴史総合』及び『公共』の3つを出題範囲とし、そのうち2つを選択解答する(配点は各50点)。 2科目を選択する場合、以下の組み合わせを選択することはできない。 (b)のうちから2科目を選択する場合、『公共、倫理』と『公共、政治・経済』の組み合わせを選択することはできない。 (b)のうちから1科目及び(a)を選択する場合(b)については、(a)で選択解答するものと同一名称を含む科目を選択することはできない。 受験する科目数は出願時に申し出ること。 | 1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分)(200点) |
| 公民 | | (a): 必修科目を組み合わせた出題科目 (b): 必修科目と選択科目を組み合わせた出題科目 | | |
| 数学 | ① | 『数学I、数学A』 『数学I』 | <ul style="list-style-type: none"> 左記出題科目の2科目のうちから1科目を選択し、解答する。 『数学A』については、図形の性質、場合の数と確率の2項目に対応した出題とし、すべてを解答する。 | 70分(100点) |
| | ② | 『数学II、数学B、数学C』 | <ul style="list-style-type: none"> 『数学B』及び『数学C』については、数列(『数学B』)、統計的な推測(『数学B』)、ベクトル(『数学C』)及び平面上の曲線と複素数平面(『数学C』)の4項目に対応した出題とし、4項目のうち3項目の内容の問題を選択解答する。 | 70分(100点) |
| 理科 | | 『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』 『物理』 『化学』 『生物』 『地学』 | <ul style="list-style-type: none"> 左記出題科目の5科目のうちから最大2科目を選択し、解答する。 『物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎』は、『物理基礎』、『化学基礎』、『生物基礎』及び『地学基礎』の4つを出題範囲とし、そのうち2つを選択解答する(配点は各50点)。 受験する科目数は出願時に申し出ること。 | 1科目選択 60分(100点) 2科目選択 130分(うち解答時間120分)(200点) |
| 外国語 | | 『英語』 『ドイツ語』 『フランス語』 『中国語』 『韓国語』 | <ul style="list-style-type: none"> 左記出題科目の5科目のうちから1科目を選択し、解答する。 『英語』は『英語コミュニケーションI』、『英語コミュニケーションII』及び『論理・表現I』を出題範囲とし、【リーディング】及び【リスニング】を出題する。受験者は、原則としてその両方を受験する。その他の科目については、『英語』に準じる出題範囲とし、【筆記】を出題する。 科目選択にあたり、『ドイツ語』、『フランス語』、『中国語』及び『韓国語』の問題冊子の配布を希望する場合は、出願時に申し出ること。 | 『英語』 【リーディング】80分(100点) 【リスニング】60分(うち解答時間30分)(100点) 『ドイツ語』『フランス語』『中国語』『韓国語』 【筆記】80分(200点) |
| 情報 | | 『情報I』 | | 60分(100点) |

試験時間は、現行の80分から10分延長。分野別の大問数及び配点は、近代以降の文章が3問110点、古典が2問90点(古文・漢文各45点)。

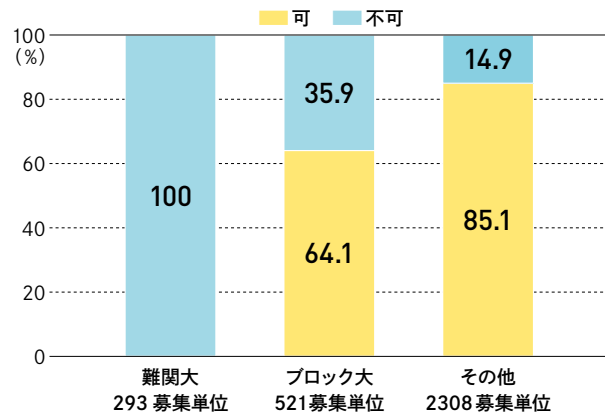
試作問題の配点は、総合科目が25点、探究科目が75点だった。

出題範囲に『数学C』が含まれ、選択解答数が現行の2項目から3項目へ増加。試験時間も現行の60分から10分延長。

新設科目となる『情報I』の試験時間は60分。

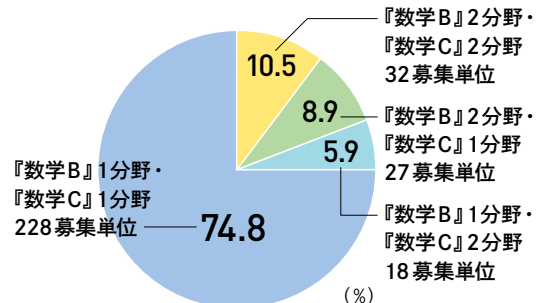
※大学入試センター公表の資料を基に編集部で作成。

図2 共通テストにおける『地理総合/歴史総合/公共』選択の可否(国公立大学一般選抜)



※難関大は、北海道大、東北大、東京工業大、東京大、一橋大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大、九州大の10大学。ブロック大は、筑波大、千葉大、横浜国立大、新潟大、金沢大、岡山大、広島大、熊本大、東京都立大、大阪公立大の10大学。
※2023年7月上旬時点の大学公表情報(3122募集単位)を基に編集部で作成。

図3 文系学部の個別試験で数学を課す際の『数学B』『数学C』の試験範囲(国公立大学一般選抜)



※文系学部の、個別試験で『数学B』、『数学C』を課し、『数学B』は数列、統計的な推測、『数学C』はベクトル、平面上の曲線と複素数平面の中から出題すると公表した募集単位の内訳。

※『数学B』2分野は数列、統計的な推測、『数学B』1分野は数列、『数学C』2分野はベクトル、平面上の曲線と複素数平面、『数学C』1分野はベクトル。2分野と1分野が選択可能な場合は2分野で集計。

※2023年7月上旬時点の大学公表情報(305募集単位)を基に編集部で作成。

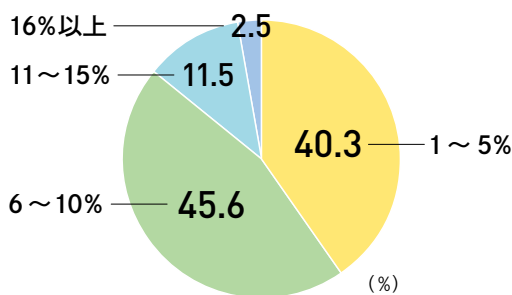
新たに設定された『情報Ⅰ』について

25年度共通テストからは、新たに『情報Ⅰ』が出題科目として設定されます。23年7月までの時点で、国立大学の一般選抜の募集単位のうち、約95%が共通テストの『情報Ⅰ』を必須としています（公立大学では約43%の募集単位が必須）。共通テストにおける情報の配点割合は、6〜10%とする募集単位が多いです（図4）。募集単位によっては、地理歴史・公民や理科と同じような配点割合となっているため、十分な対策が必要です。

『情報Ⅰ』は、「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の4項目で構成されますが、試作問題では「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」の2項目が、配点100点満点中77点を占めました。

22年度に全国の高校生が受検した、『情報Ⅰ』を出題範囲とするベネッセのアセスメント「Pプラス」の結果の分析によると、「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」は、ほかの項目に比

図4 共通テストにおける情報の配点割合



※情報を必須で課し、該当情報公表が確認された653募集単位を分析（大学・学部・学科・日程・方式）。

※次の大学の該当募集単位は集計外（東北大：数学、理科、英語、情報の成績は1段階選抜のみを利用、徳島大：情報は点数化しない、高知大：情報はボーダーライン上でのみ加味する、九州大：6教科受験のうち、情報以外の5教科から高得点の2教科で可否を判定）

※2023年7月上旬時点の大学公表情報（1438募集単位）を基に編集部で作成。

べて正答率が低くなっていました。そのため、それらは今後、特に力を入れて対策すべき項目と言えます。（『情報Ⅰ』の授業実践と入試対応について、『VIEW next』高校版8月号P.38〜41で解説しています）

25年度共通テストでは、旧教育課程履修者に配慮した経過措置が地理歴史・公民、数学、情報で講じられます。これまでの経過措置と比べても、25年度入試では、得点調整も含めて既卒生が不利にならないような準備が行われています。

なお、大学入試センターが発表した

時間割（イメージ）では、1日目、2日目いずれの試験終了時間も、現行の共通テストより10分ずつ後ろ倒しになっています。体力・集中力が一層求められる試験となるため、模擬試験などを利用して、2日間の時間の感覚を身につけておくことが大切です。

各大学の25年度入試の出題科目の公表も進んでいます。特に大きな変更と

図5 国公立大学の25年度入試における出題教科・科目の公表状況

| 大学名 | 共通テスト | | | 個別試験 | | | |
|---------|-------|------|---------|------|------|----|------|
| | 『情報Ⅰ』 | | 地理歴史・公民 | 情報 | 国語 | 数学 | 地理歴史 |
| | 必須か | 配点公表 | 選択科目 | 課すか | 試験範囲 | | |
| 東京大 | ● | | × | | ● | ● | |
| 東京医科歯科大 | ● | ● | ▲ | | | | |
| 東京外国語大 | ○ | ● | × | | | | |

【共通テストの各欄の記号について】

『情報Ⅰ』は必須か

● 全募集単位が必須

○ 必須の募集単位がある

▲ 必須の募集単位がない

『情報Ⅰ』の配点公表

● 公表されている募集単位がある

★ 配点しない（配点に条件がある）

地理歴史・公民の選択科目

『地理総合/歴史総合/公共』の

● 選択を認める

▲ 選択を認めない募集単位がある

× 選択を認めない

※各大学の公表資料を基に編集部で作成。

●ウェブサイト『VIEW next ONLINE』で一覧化した情報を公開

共通テストにおける『情報Ⅰ』の取り扱いや地理歴史・公民の選択科目、個別試験における国語、数学（文系学部）の試験範囲などを一覧にして整理しています。



<https://view-next.benesse.jp/view/web-hs/article17143/>

なる地理歴史・公民の選択科目と『情報Ⅰ』の取り扱いについては、生徒の出願大学の検討にも影響を及ぼすため、早めの情報収集が求められます。ベネッセ教育情報センターでは、25年度入試の各大学の公表状況（図5）を随時更新し、公開していますので、ぜひご確認ください。

2025年度大学入試で求められる力と教科指導

新学習指導要領に対応した最初の大学入試となる2025年度入試。入試本番までおよそ1年前となる「3年生0学期」から求められる教科指導は、どのようなものなのか。大学入学共通テストの試作問題を踏まえ、現場の教師、そして進研模試編集長が考察した。

全体 新学習指導要領の趣旨が色濃く反映された試作問題

入試本番に向けた指導上の課題

2022年11月に大学入試センターが公表した25年度大学入学共通テストの試作問題は、これまでの問題作成方針の考え方である、「主体的・対話的で深い学び」を通して育成される深い理解を伴った知識の質や、知識・技能を活用し、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められるなど、新学習指導要領の趣旨を踏まえた問題となっていました（*）。

最も注目すべきは、科目構成が大きい

く変わった地理歴史・公民の全6科目と数学、新たに出题科目として設定された『情報Ⅰ』の試作問題が公表されたことでしょうか。それらは出題科目の全体の構成が分かる問題となっており、これからの指導計画にも大きく影響を与えるものと思われます。

また、『国語』では、複数の資料を比較・関連づけたたり、多角的に評価したりすることを重視した大問が1つ追加され、『英語』では「リーディング」「リスニング」のそれぞれの問題で、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」を統合した言語活動の充実が図られて

いることを踏まえた問題が示されました。いずれも新学習指導要領で求められている教科・科目の本質を重視した問題となっていました。

試作問題を見た現場の先生方は、どのような課題を感じているのでしょうか。弊社が行った調査（23年3月実施・799校が回答）では、教科・科目を問わず、読解力の育成の必要性を指摘する声が多く上がりました。問題文から問題を見いだす力や、複数の資料を比較・関連づける力などを合わせて読解力と捉えていると思われるですが、そのような力は、新学習指導要領の下、

多くの学校で育成が図られています。いよいよ25年度入試に向けて、3年生0学期以降の授業では、育成してきた各教科・科目の見方・考え方を、問題を通じて発揮していくことが求められます。

次ページからは、『国語』『歴史総合』『情報Ⅰ』について、現場の先生方に指導のポイントをお話ししていただいています。いずれの先生も、資質・能力ベースの指導へと転換を図り、知識や情報の活用を重視した授業展開を実現しています。弊社の大学入学共通テスト模試のモデル問題と併せて、今後の指導の検討にお役立てください。



ベネッセコーポレーション
進研模試 編集長
三宅 悠介
みやけ ゆうすけ

* 進研模試編集部による、大学入学共通テストの試作問題の分析は、以下のURL https://bhso.benesse.ne.jp/hs_online/sidou/shinkatei/article/20221111_mondaibunseki/index.html または、右の2次元コードからアクセスしてください。アクセスには、ベネッセハイスクールオンラインのIDとPWが必要です。





新たなタイプの文章を題材とする大問においても、 求められるのは論理的思考力や情報活用能力

あくまで試作問題と捉え、 問題の作成方針を踏まえた指導を

——大学入学共通テストの試作問題では、「実用的な文章」を題材とした問題が示されました。それを見て、どのような力が求められていると感じましたか。

田中 2問が示されましたが、両方も、文章だけでなく、図表やグラフなどが複数提示され、それらを的確に理解して解く問題であることから、情報活用能力が必要だと感じました。加えて、評論・小説・古文・漢文と同様に、全体を俯瞰する力や論理的思考力、批判的思考力も求められていました。

場面設定は2問ともレポートを作成する言語活動でしたが、問題の質が異なっていました。第A問は資料が複雑なことに加え、解答に不要な情報が多数含まれていました。必要な情報を抽出する分析的思考力が求められたと言えます。一方、第B問は生徒が比較的考えやすい帰納的な構成でした。

入試本番でどちらのタイプの問題が出されるかが気になると思いますが、

この2問はあくまでも試作問題であり、「実用的な文章」を題材とする問題の作成方針と、問題として成立することを示したものと捉えています。入試本番では、5つの大問のバランスを考慮した問題の量や質になるはずですよ。

——試作問題にとらわれ過ぎず、問題の作成方針を踏まえた指導が大切になりますね。

田中 その通りだと思います。受験指導の観点では、試験時間が10分延びて90分となり、問題構成が大問4問から大問5問に変更されることへの対応が考えどころです。配点比率を基に各大問の時間配分を考えると、配点が20点の新たな大問は10分程度で解くことになりません。しかし、試作問題は提示資料が多く、10分で解けるものではありませんでした。従来の4つの大問の配点は各50点から各45点になり、小問が各1問減ると推測されます。小問4問分の時間を単純に新たな大問に充てられるというわけではありませんが、時間配分の想定は必要でしょう。

非連続型テキストでも 力を発揮できるように、経験を積む

——「実用的な文章」を題材とする問題の作成方針を踏まえると、どのような指導が求められると考えますか。

田中 「実用的な文章」を題材とする問題も、他分野と同様、全体を俯瞰する力や論理的思考力などが求められています。それらの力は日々の授業で育成していると思いますから、必要なのは、生徒自身が身につけた力を自覚し、試作問題のような場面設定の時にそれらの力が発揮できるように経験を積むことです。

「実用的な文章」は「評論」と似ている点もありますが、「評論」は筆者と主張が明確であるのに対し、「実用的な文章」は筆者が個人ではない場合も多く、主題とは無関係な情報も含まれます。その中から目的や条件に合った情報を抽出する力が求められます。そうした力をどんな形式の資料が出されても発揮できるように、様々な非連続型テキストを授業に取り入れるとよい



岡山県立岡山城東高校
田中誠一郎
たなか せいいちろう
同校に赴任して3年目。指導教諭。教務課長。国語科。

でしょう。それは、新たな大問に対する生徒の不安感の払拭にもつながります。

また、設問には、「アドバイスする」「題名を考える」などの場面設定がある場合があります。日々の授業において、グループワークで助言し合ったり、ポスターを製作したりと、様々な言語活動に取り組ませるとよいでしょう。

——そのような指導は、具体的にはどのようにすればよいでしょうか。

田中 教科書には、図表やグラフなどを題材とした言語活動例が掲載されています。それらの活用は、学年内で指導の方向性をそろえる上でも有効です。生徒に育みたい資質・能力に対してふさわしい題材を取り上げることが何より重要です。

非連続型テキストの読解は、地理歴史や理科、情報、総合的な探究の時間など、様々な教科で行っていると思います。教科横断的な学びを生徒に意識させることも、新たな大問への対応に結びつくはずです。

——3年生0学期以降の指導の計画に

図 試作問題に基づいた模擬試験の問題例 (抜粋)

出題内容

大問冒頭で示された【レポート】を俯瞰的に捉えることができているかを問う設問。【レポート】の内容や展開の特徴、不十分な点、よりよくするための改善点などを述べた意見について、ほかに示されたグラフや文章を踏まえて正誤を判断する。

問うている力

「何を伝えるためのレポートなのか」「現在のレポートはどのような内容・展開なのか」などを正確に捉える力や、それらを踏まえて、レポートの主張がより伝わりやすくなるためには何が必要かを考える力を問う。

問題作成の観点

複数の文章や資料を題材として、それらに関連づけて考察させたり、レポートなどを用いて、その内容や構成を検討・評価させたりする出題パターンを想定している。

三宅編集長解説

2025年度大学入学共通テストの国語で新設される、「実用的な文章」を題材とした大問3では、

文章や資料の「内容・展開を把握する力」や、「内容・展開を検討し、評価する力」などが求められます。3年生0学期以降、教科書や授業で扱った文章に関連する別の文章や、図表、グラフなどの資料を用いた演習を行い、多様な種類の文章や資料について、内容を正確に読み取り、適切に関連づける力を育成したいところです。

指導のポイント

- 新たなタイプの文章を題材とする大問でも、求められる力はこれまでと変わらない。
- 大問数の変更に伴う、時間配分などを想定しておく。
- 非連続型テキストの演習や試作問題にある場面設定で言語活動を行い、新たなタイプの文章でも力を発揮できるよう、経験を積ませる。

ついで教えてください。

田中 指導の流れはこれまでと大きく変わりません。3年次の秋までは言語活動を中心とし、大学入学共通テストの直前にマーク式問題の対策を行います。ただし、授業の内容は、コンピテンシー・ベースを意識していきます。

――授業を通じて、生徒にどのようなことを意識させていますか。

田中 私は生徒に、「理解は自分の言葉で、表現は相手が使う言葉で」と伝えていきます。入試で言えば、素材文にある言葉を適切に使って解答を記述するということです。相手の言葉に寄り添って表現した考えは、他者に伝わりやすいものになっているはず。そうした、日常の人間関係でも大切なことを生徒に育む授業を、これからも追求していきたいと思っています。

問4 ミズキさんの級友は、「レポート」の内容や展開について検討し、意見を交換した。「レポート」や「資料Ⅰ」～「資料Ⅴ」の内容を踏まえた意見として**適当でない**ものを、次の①～⑤のうちから一つを選べ。解答番号は **4**。

- ① Aさん…性別役割分業という社会的な問題について、「家事」という身近なテーマに関するアンケート結果を踏まえて論じているね。当事者意識を持って考えるべき問題だと改めて実感することができたよ。
- ② Bさん…「夫婦間で従業上の地位が異なっている」という主張については、根拠が十分でないと思う。各夫婦における従業上の地位の組合せとしてどのようなパターンが多いのか、実際に調査してみるのはどうだろう。
- ③ Cさん…家事分担の不均衡の原因を「妻の従業上の地位の違い」にだけ求めているのが気になったな。【資料Ⅱ】によると、妻が「常勤」の場合でさえ家事を均等に分担できてはいないのだから、別の原因も検討するべきだと思う。
- ④ Dさん…「性別役割分業の考え方が根強く存在している」という主張については、もう少し詳しい説明がほしい。たとえば、【資料Ⅳ】の一段落目と関連付けながら性別役割分業の考え方が形成された経緯を説明するのはどうか。
- ⑤ Eさん…性別役割分業について、「日本特有の課題」である可能性が示唆されているよ。この点について、海外の国々における調査結果と比較しながら論じると、もっと説得力のある内容になりそうだね。

※大学入学共通テストの試作問題を基に進研模試編集部で作成した問題を抜粋して掲載。

歴史総合

歴史的事象を様々な立場から捉え、 多面的・多角的に考察する力が求められる



愛知県立大府高校
野々山 新
ののやま しん
同校に赴任して2年目。進
路指導部。地理歴史科。

知識は中学校レベル、 歴史を読み解く「概念」が必要

—— 大学入学共通テストの試作問題を見て、どのような力が求められていると感じましたか。

野々山 『歴史総合』の試作問題は、大量の資料が提示され、それらを読解・比較した上で考察する問題でした。近現代の日本と世界が融合した『歴史総合』という科目の特徴を捉えた問題で、資料の作者の意図（国や立場の違い）を理解する、あるいは資料の作者以外の第三者の視点から批判的に捉えるなど、多面的・多角的な考察力がより求められていると感じました。

—— 歴史的事象を多面的・多角的に考察するとは、どういったことでしょうか。
野々山 アヘン戦争を例に資料を考察してみると、中国側はアヘン貿易の是非が論点となる一方、イギリス側は自由貿易の原則が論点となっていることに気づくことができます。その相違は戦争の要因の1つとなりました。つまり、複数の視点に立脚して特定の事象

を捉え直すということですね。そのためには、資料の特性をつかむことや、当事国と第三国、政府と民衆といった国や立場の違い、現在とは異なる時代の文脈などに注目することが大切です。

—— 時代の文脈を捉えられるようになるためには、何が重要だと考えますか。

野々山 時代の特徴を形づくる「概念」の理解が何より重要です。産業革命であれば、工業化から近代化がどのように進んだのか、それが社会や人々にどんな影響を与えたのかなど、国を超えた共通点を理解することです。

概念を学ぶとは、眼鏡をかけることと似ていると思います。度数や偏光率によって見え方が変わりますし、本人の意思でかける眼鏡を自由に変えられます。同様に、歴史の概念を1度理解すれば、歴史の見え方が変わりますし、問題意識に応じて異なる概念を重視して考察することもできます。試作問題を見ても、必要な知識は中学校の歴史的分野レベルで、資料を通じていかに歴史的現象を概念的に捉えて考察できるかが求められています。

グループワークで、資料を 捉える多様な視点を学ぶ

—— 生徒が歴史の概念を理解することができるよう、『歴史総合』の授業ではどのような工夫をしましたか。

野々山 22年度は次のような授業を行いました。まずは生徒の実態をつかみ、生徒が疑問を抱くような単元を置くのと、その問いを解くための各授業の問いを立てました。例えば1学期は、単元の問いを「工業化の進展は、私たちの生活を豊かにしたのではなかったのか」とし、各授業の問いは「イギリスの自由貿易は豊かさを与えたのか」「植民地支配に伴う工業化は豊かさと言えるのか」などとしました。そして、生徒が各授業の問いを教科書や資料集に載っている資料などを活用しながら解く中で、自分や社会が歴史どううつながっているのかを考えられるようにしました。なお、問いは本校の生徒が疑問を持ちそうなものにし、また、教科書に掲載されている問いも活用できるようにしています。

—— 『歴史総合』では教科書で扱う内容が増え、授業進度が厳しいといった声をよく聞きます。
野々山 確かに標準単位数の2単位では、教科書の内容を網羅して教えることは難しいでしょう。教科書を題材に概念を理解することを通して、社会的現象の歴史的な見方・考え方を学ぶという目標を明確にすれば、目標に沿って内容を精選することにつながります。その精選の考え方は、『世界史探究』や『日本史探究』でも同様です。

—— 3年生の学期以降の指導の計画について教えてください。

図 試作問題に基づいた模擬試験の問題例 (抜粋)

出題内容

「なぜアメリカ合衆国がワシントン体制の構築を目指したのか」という疑問に対する生徒の考察と、考察を導くために必要な資料を組み合わせる問題。

問うている力

資料の趣旨を把握し、条件との整合性を踏まえて必要な資料を取捨選択する力を問う。

問題作成の観点

複数の資料を基に疑問を考察・検証するような探究活動のプロセスを意識した出題パターンを想定している。

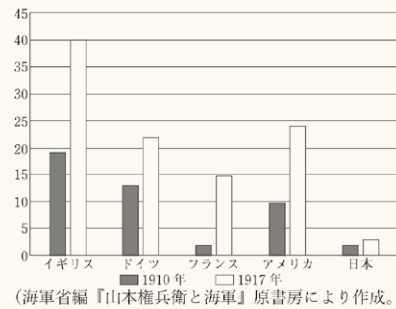
三宅編集長解説

『歴史総合』

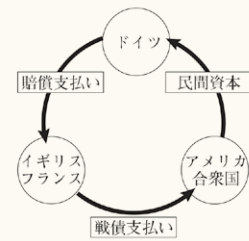
では、様々な資料を読み取る技能とともに、学習した知識と結びつけて具体と抽象を往還する力や、資料に基づいて疑問を考察・検証する力などが問われます。『歴史総合』の教科書にもたくさんの補足資料が掲載されていますが、そうした資料も活用しながら、「自由・制限」「平等・格差」など、様々な観点から多面的・多角的に考察することが重要です。

問3 下線部bに関連して、修太さんは「なぜアメリカ合衆国がワシントン体制の構築をめざしたのか」という疑問を持ち、次の資料4～6を集めて考察を行った。修太さんが作成した下の考察文X・Yと、その考察を導くために必要な資料の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

資料4 列強諸国の戦艦保有隻数



資料5 ドイツの戦後処理



資料6 平和に関する布告 (1917年11月8日)

著作権の都合により非掲載

考察文

X 極東地域における社会主義勢力の拡大に加え、中国における日本の勢力拡大にも警戒する必要があったから。

Y 自国の財政のためにヨーロッパの復興支援を行おうとする一方で、第一次世界大戦期からの軍事費の拡大が問題になっていたから。

- ① X－資料4と5 ② X－資料4と6 ③ X－資料5と6
 ④ Y－資料4と5 ⑤ Y－資料4と6 ⑥ Y－資料5と6

*大学入学共通テストの試作問題を基に進研模試編集部で作成した問題を抜粋して掲載。

指導のポイント

- 求められるのは、時代や社会の概念的な理解。それができていれば、細かな知識に依存せずに、歴史的事象を考察することができる。
- 資料を多面的・多角的に捉えられるようになるためには、グループワークが効果的。
- 探究科目に接続して、複数の資料を考察する学習を継続的に実施。

野々山 『世界史探究』の試作問題を見ると、習得すべき知識は『歴史総合』より大きく増えるものの、『歴史総合』と同様、歴史的事象を多面的・多角的に考察する力を問う問題が中心でした。2年生の『世界史探究』の授業は、基本的に『歴史総合』と同じ授業スタイルを採っています。『歴史総合』で学んだ概念を活用する問いを設けることで、『歴史総合』の復習も行っています。

—— 授業を通じて、生徒にどのような力を育みたいと考えていますか。

野々山 『歴史総合』は、歴史教育を大きく転換させる科目です。現代的な諸課題を理解して社会に関心を持ち、多面的・多角的な考察力を身につけ、社会をよりよくすることに繋がるような学びを、生徒に提供し続けていきたいと思っています。

情報 I

求められるのは、情報を活用する力。 情報を読み取り、考察する経験を重ねる



兵庫県私立雲雀丘学園中学校・高校
林 宏樹
はやし・ひろき
同校に赴任して2年目。2学年担任。
数学科、情報科 探究科。

知識の習得は最低限で、 活用力と読解力の育成が重要

—— 大学入学共通テストの試作問題を見て、どのような力が求められていると感じましたか。

林 『情報I』の試作問題を見ると、知識の習得は最低限でよいけれども、教科書の内容を教えるだけでは不十分で、読解力や考察力の育成が必要だと感じました。2次元コードを題材にした問題がありましたが、2次元コードは教科書で扱われていません。情報技術は日々進化しているとともに、その活用領域は世の中で広がり続けていて、入試で扱われる題材を推測するのは不可能です。重要なのは情報技術の活用力と、問題文を正確に読解する力を育成することだと考えています。

—— 「情報社会の問題解決」「コミュニケーションと情報デザイン」「コンピュータとプログラミング」「情報通信ネットワークとデータの活用」のうち、課題に感じている分野はありますか。

林 得点の差がつく分野は、多くの生徒が高校から学び始める「プログラミング」「データの活用」でしょう。

「プログラミング」は多くの教師が指導に戸惑っている分野ですが、『情報I』で求められるのは、プログラムを一から作成する技能ではなく、プログラムを読み解く力です。プログラム（3構造（順次・条件分岐・繰り返し））を理解し、順序立てて考える論理的思考力やフローチャートに表す構成力があれば、入試問題に十分対応できると考えています。

「データの活用」は数学の「データの分析」と混同されがちですが、試作問題の「データの活用」では、計算問題は出されていません。問われるのは、読み取った数値をどの場面ですぐ活用できるかを考える力です。例えば、相関係数が同じでも、散布図が異なれば分析結果が違ふといったことを理解し、データを読み取る力が挙げられます（図）。そうした力があれば、調査データをこのみにせず、数値の意味を考えられるようになるでしょう。

演習の中で試行錯誤をさせ、 問題への対応力を鍛える

—— 『情報I』の授業ではどのような工夫をしましたか。

林 私は、教科書の掲載順とは異なる順序で各分野を取り上げました。具体的には、1学期は「情報社会の問題解決」と「データの活用」を学習し、統計ポスター製作の演習を行いました。2学期は「プログラミング」「情報通信ネットワーク」、3学期は「コミュニケーションと情報デザイン」を学習し、1学期に製作した統計ポスターを、情報デザインの観点で再度製作させました。

—— 同じ演習内容にすることで、生徒に試行錯誤をさせたのですか。

林 どの演習においても、生徒が課題を実行した後に私がすぐに解説するのはなく、生徒自身が結果を考察し、改善点を考えて再び実行する試行錯誤を行う流れにしています。プログラミングでもデータの活用でも、問題発見と修正の繰り返しでよりよいものができます。生徒にもそれを経験させること

とで、考察力と活用力を鍛えています。演習は生徒同士で試行錯誤させ、私は極力かわらないようにしています。また、演習の解説では、間違えた生徒にどう考えたのかを聞き、なぜ間違えたのかについてやり取りします。正解した生徒も、その対話を聞くことで、疑念的に試行錯誤ができるからです。

—— 『情報I』を1年次に履修した学校が多いですが、今後の指導をどう進めようと考えていますか。

林 本校では、3年次に情報演習を行う科目を設置しています。それに向けて、2年次の後半は、毎週水曜日の朝学習の10分間に、薄い問題集に取り組みさせています。3年生0学期は、国語や数学、英語の基礎力の完成に向けた学習が重要な時期です。『情報I』の学習には負荷をかけずに、用語だけは思い出しおいてほしいと思い、10分間の学習に取り組みさせています。

3年次の情報演習では、プログラミングの演習を中心に行う予定です。最初に述べた通り、知識は最低限で、重要なのは試行錯誤の経験を通じて身に

図 試作問題に基づいた模擬試験の問題例 (抜粋)

出題内容

複数の散布図と相関係数から、データの関係性や傾向を読み取る問題。

問うている力

散布図を適切に読み取る力と、相関係数の意味を理解する力を問う。

問題作成の観点

データを活用して、問題を解決する場面や、データから課題や事象の傾向を導き出す場面を設定して出題することを想定している。箱ひげ図や散布図、回帰直線の知識を活用して何らかの結論を導き出す力を測定する。

三宅編集長解説

『情報Ⅰ』の試作問題の

概要には、「考察」という言葉が多く見られました。実際、試作問題は、知識の有無を直接問う問題ではなく、知識を使って考察させる問題が出されています。多くの学校では1年次に『情報Ⅰ』を履修済みですが、今後は、教科書に記載されている知識の習得と並行して、問題解決の場面を設定し、情報に関する知識を活用・実践する問題に接する機会をつくることが重要です。

問2 データシートを分析しやすい状態にした後、タロウさんとハナコさんは、各データ同士の関係性を見出そうとしている。以下の二人の会話文を読み、その後に続く問い(a・b)に答えなさい。

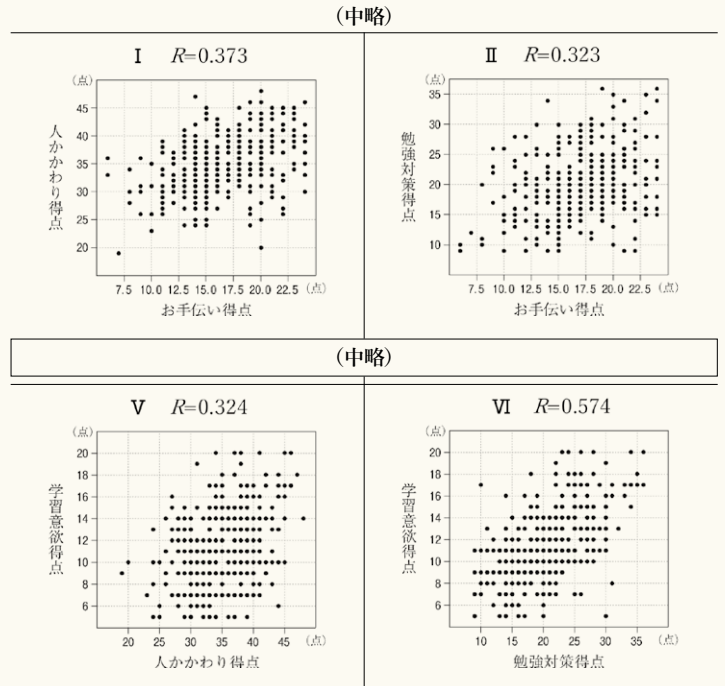


図1 各得点の散布図と相関係数(R)

b. 下線部について、図1から言えることとして正しいものを、以下の解答群の中から二つ選べ。

オ 力 (順不同)

- ① 「お手伝い得点」の最大値は、23である。
- ② IのRは、IIIのRの約2倍であるため、Iの相関の強さはIIIの約2倍である。
- ③ 「人かかわり得点」の平均値は、25である。
- ④ IIとVの相関の強さはほぼ同じである。

※大学入学共通テストの試作問題を基に進研模試編集部で作成した問題を抜粋して掲載。

指導のポイント

- 大学入学共通テストの『情報Ⅰ』に向けての知識は、問題集で復習。
- 問題文を的確に読解し、与えられた情報を活用して問題を解く対応力を身につけさせる。
- 生徒同士で演習に取り組ませ、生徒に試行錯誤をさせて、読解力や考察力を鍛える。

つける活用力と読解力です。1年次に課した演習にも再度取り組ませて、試行錯誤をさせたいと考えています。また、問題文を読み飛ばす生徒が多いので、問題文に書かれている解答のヒントを読み取り、与えられた情報を活用する意識も持たせたいと思っています。

――授業を通じて、生徒にどのような力を育みたいと考えていますか。

林 何事も間違えたり、うまくいかなかったりすることがあります。その時に大切なのは、諦めず、問題を見いだし、その解決策を考えて実行し、うまくいかなければ別の策を考えるなど、試行錯誤しながら目標に向けて走り続ける力です。たとえ目標に到達できなくても、試行錯誤が自分の成長につながる実感できるような授業を、これからも目指していきます。

2025年度大学入試に向けた進路指導のポイント

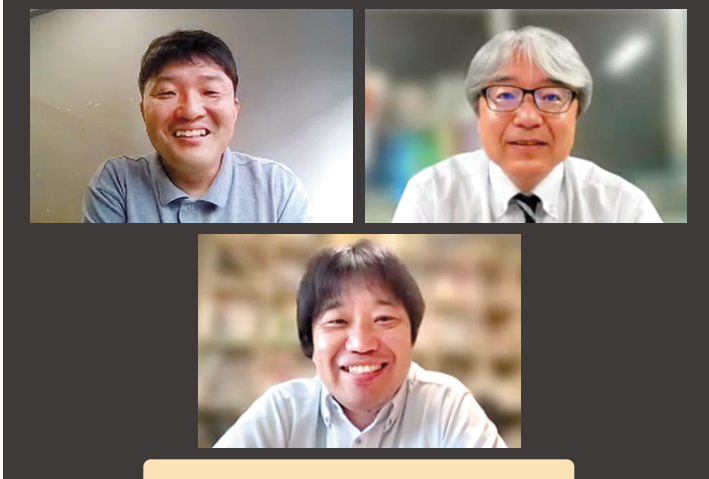
大学入試に向けた指導・支援におけるターニング・ポイントとも言える「3年生0学期」を迎えるにあたり、教師はどのような準備をすればよいのか。また、25年度大学入試に向き合うことを通じて、生徒にはどんな成長を遂げることが望まれるのか。進路指導を長年担当してきた3人の教師に話を聞いた。

わかさ
福井県立若狭高校
キャリアサポートセンター(*) 室長
こさかやすゆき
小坂康之

同校に赴任して10年目。水産科。
学校概要は16ページ

北海道札幌北高校
進路指導部長
たかくわともや
高桑知哉

同校に赴任して3年目。理科(化学、物理)。
学校概要は16ページ



奈良県・私立西大和学園中学校・高校
高校1年生担任
なしだ たかし
梨子田 喬

同校に赴任して1年目。地歴公民科(世界史)。
学校概要は17ページ

25年度大学入試に向けた取り組みと必要な視点

どの教科においても
読解力がますます重要に

— 25年度入試に向けた指導や支援において、今後どのような視点が必要でしょうか。

梨子田 大学入学共通テストの試作問題からも見て取れるように、大学入試はコンピュータシー・ベースに変わっています。一方、毎年度、大学入学共通テスト後には、「覚えた内容を出してほしい」「世界史なのに問題文が長くてこれでは現代文の問題ではない

か」といった受験生のつぶやきがSNS上で散見されます。そうした不満が上がるのは、学校現場の授業がコンテンツの習得に偏っているからではないでしょうか。25年度入試に向けても、その差を埋めることが求められ、教師も生徒もコンテンツ・ベースの授業観から脱却すべきだと思っています。

高桑 その通りだと思います。特に大学入学共通テストが難化している中、あらゆる教科・科目において読解力が求められていると感じます。授業などで生徒同士で議論する場を設けて、思考力や表現力とともに、知識を再構築する力を鍛えることも必要だと思います。
梨子田 読解力と知識の再構築力を鍛えるには、改めて読書が注目されるべきでしょう。例えば、探究学習の過程で、あるいは志望理由書の作成準備の中で、生徒に「○○とは何か」「○○は

* 生涯にわたる学習観や職業観を身につけることを支援するという意味で、いわゆる進路指導部を「キャリアサポートセンター」としている。

25年度大学入試に向けた指導・支援のポイント

25年度大学入試に向けた取り組みと必要な視点

- ✓ コンピテンシー・ベースの大学入試に対応する意識変革
- ✓ 目的意識を持った読書活動により、読解力や知識の再構築力の向上を図る
- ✓ 『情報Ⅰ』の必要性を、教師・生徒に共有する

3年生0学期以降の指導・支援のポイント

- ✓ 志望理由書の作成指導を開始し、志望校への思いを確かなものにさせる
- ✓ 志望分野を決定していくことで、受験校の選択肢を広げる
- ✓ 種々のデータに基づいて、生徒が持っている資質・能力を多面的に把握する
- ✓ 学年団で伸ばしたい力を共有し、その育成に教科横断で取り組む

25年度大学入試に向けた学習や進路選択を通して身につけてほしいこと

- ✓ 主体的な進路選択を通じて育まれる、自分の人生を切り拓く力
- ✓ 自分の学力を客観的に把握し、粘り強く自己調整する力

なぜか」等の目的意識を持って書籍を読ませ、その内容をアウトプットさせるなど、新学習指導要領の文脈で指導することが大切です。

小坂 やはり日々の授業が重要であり、授業をコンピテンシー・ベースにするためには、組織的に授業力を高める工夫が必要です。本校は授業研究会や互見授業を行い、指導のノウハウを学び合っています。その過程での、生徒にどのような資質・能力を身につけさせたいかなどを教師間で語り合うことが、目標の共有と、指導の方向性をそろえることにつながっています。

『情報Ⅰ』を自分事として 生徒が学べるように

— 大学入学共通テストに向けた指導や支援はどのように考えていますか。

梨子田 『情報Ⅰ』がポイントの1つになると考えています。私は元公立高校教師で、昨年度は県教育委員会に在籍していました。公立・私立・行政・都市部・地方部と様々な立場で学校現場を見てきましたが、地域によって情報科教師の配置に差があり、学校間で指導の差が生じていると思いました。

小坂 福井県では、現職の教師に情報科の教員免許を取得させる方針を採って

います。また本校では、保護者の不安を解消するため、『情報Ⅰ』を含めた入試全般の指導方針を保護者会で説明するなど、情報共有に努めています。

高桑 本校では、志望者数の多い北海道大学が、大学入学共通テストの『情報Ⅰ』の受験は課すが、配点はしない方針としたため、生徒の『情報Ⅰ』に対する学習意欲への影響を懸念しています。『情報Ⅰ』は、Aやデータサイエンスに関連する科目であり、文理にかかわらず必要な科目です。「大学や社会で役に立つ学びだから頑張ろう」と言って、生徒への動機づけを図っています。また、第1志望が北海道大学でも、大学入学共通テストの結果次第で他大学に受験する可能性もあります。その点でも対策は必須とし、3年次の夏季休業中に『情報Ⅰ』の講習を行う予定です。

梨子田 受験期に「情報が必要だから勉強しなさい」といきなり言っても、生徒には響かないでしょう。1・2年次の『情報Ⅰ』の授業で、自分の生活に根差したことを学ぶ科目だと実感し、自分事として捉えられるようにすることが大切です。生徒が「せっかく学んできたのだから、受験科目としても上手に活用しよう」と思えるような流れを3年生0学期までにつくれればよいのではないかと思っています。

『情報I』は大学や社会で必要な力をつける科目として、
教科と連携して指導しています。

高桑



北海道札幌北高校

◎設立 1902 (明治 35) 年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約 320 人
◎2022 年度卒業生進路実績 国公立大は、旭川医科大、小樽商科大、北海道教育大、北海道大、東北大、千葉大、東京工業大、東京大、京都大、大阪大、神戸大、公立千歳科学技術大、札幌医科大などに 224 人が合格。私立大は、慶應義塾大、上智大、早稲田大などに延べ 238 人が合格。

3 年生 0 学期以降の 指導・支援の ポイント

志望理由書の作成を通じて、 選抜方法の適性を見取る

— 3 年生 0 学期以降は、どのような
進路指導が求められるでしょうか。

小坂 本校では 2 年次後半までに、大
学で学びたい研究分野を決めるよう、
指導しています。学びたい研究分野と
いう視点で進路を考えれば、受験校の
選択肢は広がりますし、第 1 志望校で
なくても、入学した大学で志望分野が
学べれば、満足度の高い大学生活を送
れるでしょう。反対に、難易度だけで
志望校を決めてしまうと、つらい状況
に直面した時に、安易に志望校を変更
しがちです。「探究学習ではどの分野
に興味を持った?」「○○を頑張ってい
たね」などと生徒と対話し、生徒が自
ら適性や関心を見いだせる支援を心が
けています。

3 年生 0 学期は、志望理由書の作成
指導を始めるよいタイミングだと思っ
ます。志望理由書の作成を通じて、自

分が何を、なぜ学びたいのかを整理す
ることは、志望校への思いを確かなも
のとするにもつながるでしょう。
そこで小論文の指導も行えば、自分が総
合型選抜と一般選抜のどちらに向いて
いるのか、生徒が自ら気づくはずですよ。
梨子田 私は、総合型選抜と一般選抜
は「一筋」にあると、生徒や保護者に
伝えてきました。総合型選抜でも知識・
技能をおろそかにしたら太刀打ちでき
ませんし、一般選抜でも思考力・判断
力・表現力が求められるからです。3
年生 0 学期の指導としては、例えば、
「関連づける力」など、生徒に身に付
けさせたい資質・能力を 1 つ設定し、
その育成を学年団・全教科で取り組む
といった指導をお勧めします。教科横
断で行えば、生徒の資質・能力の学年
全体での底上げにつながります。

様々なデータを活用して 多面的に生徒を把握する

— 総合型選抜の募集枠が年々拡大して
います。進路指導に変化はありますか。

小坂 本校は、生徒間の学力差が大き
いため、一人ひとりの適性や志望を踏
まえた指導が欠かせません。その際に
活用するのがデータです。若手教師も
含めた学年団全員で、模擬試験の結果

自分が主体的になれる「動詞」を見つけることは、
何事も諦めずに、道を切り拓く力につながると考えます。

小坂



福井県立若狭高校

◎設立 1894 (明治 27) 年 ◎形態 全日制・定時制/普通科、文理探究科、海洋科学科/共学 ◎生徒数 (全
日制) 1学年約 270 人 ◎2022 年度卒業生進路実績 (全日制) 国公立大は、北海道大、筑波大、横浜国立大、
富山大、金沢大、福井大、京都大、大阪教育大、大阪大、神戸大、奈良教育大、和歌山大、鳥取大、徳島大、
香川大、愛媛大などに 81 人が合格。私立大は、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ 305 人が合格。



進路選択と入試の壁を乗り越える経験を通じて、
自分の人生をハンドリングできる力を身につけてほしい。

梨子田

奈良県・私立西大和学園中学校・高校

◎設立 1986 (昭和 61) 年 ◎形態 全日制/普通科/共学 ◎生徒数 1学年約 340 人
◎2022 年度卒業生進路実績 国公立大は、北海道大、東京大、名古屋大、京都大、大阪大、神戸大などに 170 人が合格。私立大は、慶應義塾大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ 180 人が合格。

や志望校の出題傾向など、様々なデータを分析し、生徒が持っている資質・能力を基に、総合型選抜と一般選抜のどちらを勧めるかを検討します。

高桑 本校も、「校内実力模試」と外部の模擬試験のデータを用いて志望校検討会を行っています。これまで蓄積されてきたデータを基に、生徒一人ひとりについて、適性のある選抜方式や合格可能性、支援内容を各学年で検討し、それを活用して3年次の進路支援を行います。また、2年次に、東京大学・京都大学志望者と医学科志望者でそれぞれチームを結成し、勉強会等を通じて最後まで諦めない意志を醸成しています。

小坂 本校が重視しているのは2年次の2月の模擬試験の結果です。それを基に入試本番までの学力の伸びを推測し、総合型選抜や学校推薦型選抜を視野に入れるかを検討します。そして科目担当者による会議では、各科目担当者・担任・キャリアサポートセンター・教務部が、各学年での学習状況や模擬試験の結果、志望校を共有し、生徒への声かけの内容も相談します。

生徒の志望校を検討するのは大変ですが、2年次の後半に今後の指導の見通しを立て、それを生徒と共有しておくことで、3年次の指導・支援をスムーズに進めることができます。

**25年度大学入試に向けた
学習や進路選択を通して
身につけてほしいこと**

**進路選択を通じて育みたい、
自分の人生を切り拓く力**

— 大学入試は、生徒が成長する重要な機会でもあります。どのような力身につけてほしいと考えていますか。

小坂 本校では、「自分が主体的になれる『動詞』を見つけよう」と、生徒に呼びかけています。例えば、「私は〇〇をしている時に心が動かされる」「〇〇している時が充実している」といった動詞です。多くの人と出会い、対話する中で、自分が価値を感じることを見つけ、その実現に向けて壁を乗り越え、努力を重ねる。そうした経験を通じて、何事も諦めずに、道を切り拓く力をつけてほしいと願っています。

梨子田 やや抽象的になりますが、生徒には主体的に進路選択ができる力を身につけてほしいと思っています。それが自分の人生を自分でハンドリングしようとする姿勢につながると考えるからです。生徒が主体的に進路選択を

するために、大学入試の前段階として、生徒主体で行う特別活動が鍵になると考えています。本校の生徒は学校行事に熱心に取り組み、運営も生徒が行います。そこで培われた情熱や集団の力が大学入試に向けられ、進路実績を上げています。そうした学びの基盤づくりは、集団で学ぶ学校だからこそできることであり、学校の価値だと思います。

高桑 本校の生徒も学校行事に全力で取り組み、特に学校祭への熱意はこちらが驚くほどです。達成感や感動体験、時には生徒同士の衝突も含めて、総合的な人間力の醸成につながっています。それは大学入試だけでなく、大学や社会において生きる力だと思っています。

小坂 授業や特別活動などに加えて、評価も生徒主体で行うことが重要ではないでしょうか。自己評価を通じて自己分析能力やメタ認知能力が高まれば、模擬試験の振り返りなども、生徒自身が確に行えるようになるでしょう。合格可能性の判定を見て一喜一憂するのではなく、自分はどこができていて、どこが足りないのかを客観的に把握し、粘り強く自己調整していく力も、大学入試に向けた学習の中で育めます。25年度入試もそうした指導・支援の機会にしていきたいと思います。